

## 5 環境学習会

### (1) サリオパーク祖父江 昆虫自然観察会（林や野原の昆虫コース）

#### ① 活動要領

- ・ 目的：環境基本計画に基づき、市民の方々に身近な自然とのふれあいを通じて、人と自然が共生できる社会作りの推進を図る
- ・ 日時：平成27年 8月 8日（土） 午前9時から11時30分まで
- ・ 場所：稲沢市祖父江町地内木曾川河川敷（サリオパーク祖父江内）
- ・ 内容：木曾川河川敷に生息する昆虫の観察
- ・ 集合：国営木曾三川公園ワイルドネイチャー駐車場  
※雨天：木曾川祖父江緑地管理事務所駐車場
- ・ 参加者：市内小学生及び保護者 14組 38人
- ・ 講師等：指導者2人 補助者2人 職員1人

#### ② 活動内容

- ・ 事前調査：活動場所、危険箇所、救急体制、交通事情、生物生息環境等
- ・ 事前準備：捕虫網、ピンセット、ルーペ、カメラ、台紙、記録用紙、筆記用具、救急セット、飲物等
- ・ 参加者準備：昆虫を取る網、虫を入れる容器、筆記用具、帽子、水筒、タオル
- ・ 当日日程：
  - ～9：00 集合
  - 9：00～9：15 主催者あいさつ 日程説明 講師紹介
  - 9：15～9：30 事前ガイダンス
  - 9：30～10：45 昆虫観察や採集
  - 10：50～11：30 事後ガイダンス、まとめ、環境学習、閉会

#### ③ 観察・採集した昆虫

ナミアゲハ	クロアゲハ	キタキチョウ	ウラギンシジミ
ベニシジミ	ヤマトシジミ	ルリシジミ	アサイチモンジ
ゴマダラチョウ	アカタテハ	サトキマダラヒカゲ	チャバネセセリ
モノサシトンボ	ハグロトンボ	ウチワヤンマ	ギンヤンマ
オオヤマトンボ	ウスバキトンボ	シオカラトンボ	コノシメトンボ
トノサマバッタ	ショウリョウバッタ	クルマバッタモドキ	ハヤシノウマオイ(幼虫)
アオバハゴロモ	ベッコウハゴロモ	アブラゼミ	ニイニイゼミ
ツクツクボウシ	ホソヘリカメムシ	ホシハラビロヘリカメムシ	スキバツリアブ
トラフムシヒキ	オオカマキリ	ハラビロカマキリ	ヤマトゴキブリ
マメコガネ	シリテンハナムグリ	オオヒラタシデムシ	オオスズメバチ
モンズズメバチ	セグロアシナガバチ	ヤマトアシナガバチ	スズメバチ

#### ④ 活動の実際と考察

事前ガイダンスで危険な虫についての諸注意やカ・ダニ・毒グモ対策などについての予備知識や対策について伝えた。

今年度は昆虫観察と植物観察の参加者を別々に募集したため、十分に時間をとって活動することができ、参加者に好評であった。

その後、全員揃って観察・採集に出発した。コース途中には樹林や草丈の高い草原、草のまばらな砂地、水辺などがあり、それぞれの場所で見られる昆虫について説明しながら観察を行った。樹液に集まるコムラサキ、ゴマダラチョウカナブン、サトキマダラヒカゲなどや日陰のハグロトンボ、ヒメウラナミジャノメなど、陽のあたる草原のシオカラトンボ、ウスバキトンボ、ショウリョウバッタ、ヤマトシジミなど、水たまりで吸水するアオスジアゲハなどを見ることができた。

今年は、コース内にオオスズメバチとモンスズメバチの営巣があったので、スズメバチの生態や注意事項についても話をした。

観察を終えて各自採集した昆虫を持ち寄り、昆虫名の確認、飼い方や虫の取り扱い方などについて説明した。チョウやトンボは飼育が困難なため、標本にする場合を除いて、観察終了後は放つようにすること、バッタ類は飼育ができるので、飼育の方法についても説明を加えた。

今回は樹液の出ている樹木が少なかったため、樹液に集まる昆虫をあまり観察することができなかったが、それでも短時間で結構多くの昆虫を観察することができた。いつも感じることであるが、子どもたちは虫を見つけることが上手で、初めての子でも多くの昆虫を観察することができた。

#### ⑤ 活動の様子



## (2) サリオパーク祖父江 植物自然観察会（林の花や葉調べコース）

### ① 活動要領

- ・ 目的：環境基本計画に基づき、市民の方々に身近な自然とのふれあいを通じて、人と自然が共生できる社会作りの推進を図る
- ・ 日時：平成27年 8月 8日（土） 午前9時から11時30分まで
- ・ 場所：稲沢市祖父江町地内木曾川河川敷（サリオパーク祖父江内）
- ・ 内容：木曾川河川敷に生息する植物の観察
- ・ 集合：国営木曾三川公園ワイルドネイチャー駐車場  
※雨天：木曾川祖父江緑地管理事務所駐車場
- ・ 参加者：市内小学生及び保護者 3組8人
- ・ 講師等：指導者3人 補助者3人 職員1人

### ② 活動内容

- ・ 事前調査：活動場所、危険箇所、救急体制、交通事情、生物生息環境等
- ・ 事前準備：ピンセット、ルーペ、カメラ、台紙、記録用紙、筆記用具、救急セット、飲物等
- ・ 参加者準備：筆記用具、帽子、水筒、タオル、レジ袋、新聞紙（20枚程度）
- ・ 当日日程：  
～9:00 集合  
9:00～9:15 主催者あいさつ 日程説明 講師紹介  
9:15～10:15 真夏に咲く花の観察。色々な形の葉の採集  
10:20～10:40 クーピーや絵の具を使って葉の形や葉脈写し  
10:50～11:20 観察のまとめ、環境学習、閉会あいさつ

### ③ 活動の実際

#### ア 観察した植物

ヌルデ	ナンテン	オニグルミ	センダン
エノキ	ムクノキ	ママコノシリヌグイ	カラスウリ
ヘクソカズラ	キンミズヒキ	ミズヒキ	ノブドウ
エビズル	ミズタマソウ	シロバナサクラタデ	センニンソウ

など

#### イ 参加者の様子

少人数の参加ではあったが、デジタルカメラやスマートフォンで写真を撮ったり花や葉の名前を尋ねたり意欲的に参加する姿が見られた。

中学1年と小学5年の兄妹は、夏休みの自由研究として参加したとのことで、植物の標本作りにも関心があり、いろいろなことを質問してきた。

夏は花が少ないため、本の小さな野草の花を見つけて感動している場面も見られた。

### ④ 考 察

この時期は花が少なく、植物観察には不向きでもあるが、参加者全員意欲的に取り組んでいたため、ホッとした感がある。夏休みは自由研究や課題学習の時期でもあり、本当に植物が好きな子や関心の高い人が参加するようである。36℃

を超える猛暑日ではあったが、林間・林縁での活動のため、暑さを感じることなく学習できたと思う。今後はもっと花の多い時期や実ができる時期に開催し、一般の人を対象に行うことも考えていけるとよい。

⑤ 活動の様子



(3) 千代田地区 水生生物自然観察会（水の中の生き物コース）

① 活動要領

- ・目的：環境基本計画に基づき、市民の方々に身近な自然とのふれあいを通じて、人と自然が共生できる社会作りの推進を図る
- ・日時：平成27年 8月 8日（土） 午前9時から11時30分まで
- ・場所：稲沢市福島町地内の用水路及び池（千代田中学校北付近）
- ・内容：水路などにすむ魚や水生昆虫の観察など
- ・集合：千代田中学校北側 武道館前
- ・参加者：市内小学生及び保護者 14組 32人
- ・講師等：指導者3人 職員1人

② 活動内容

- ・事前調査：活動場所、水量、危険箇所、救急体制、交通事情、生物生息環境等
- ・事前準備：水網、四手網、バケツ、水槽、バット、ピンセット、ルーペ、カメラ、記録用紙、筆記用具、救急セット、飲物等
- ・参加者準備：たも、とれた魚などを入れる容器、筆記用具、帽子、タオル
- ・当日日程：
  - ～ 9:00 集合
  - 9:00～ 9:15 主催者あいさつ 日程説明 講師紹介
  - 9:15～10:30 自然観察会
  - 10:30～11:30 観察のまとめ、環境学習、閉会あいさつ

③ 活動の実際

ア 観察された生物

No.	類	生物名	備考	No.	類	生物名	備考
1	魚類	タモロコ	5	15	昆虫	ハイイロゲンゴロウ	多数
2		モツゴ（成魚）	18	16		シオカラトンボ	多数
		モツゴ（稚魚）	4	17		ギンヤンマ（幼虫）	4
3		ドジョウ	9	18	両生類	ツチガエル	多数
4		メダカ	多数	19		トノサマガエル	5
5		ヨシノボリ	6	20		ナゴヤダルマガエル	多数
6		ギンブナ	多数	21	甲殻類	スジエビ	多数
7		タイリクバラタナゴ	(外)2	22		アメリカザリガニ	(外)5
8		カダヤシ	(外)6	23	爬虫類	ミシシippiaアカミミガメ	(外)3
9		ドンコ	4	24		クサガメ	1
10	貝類	ヒメタニシ	多数	25	哺乳類	ヌートリア 足跡とイネの噛み跡	(外)
11		サカマキガイ	(外)15				
12		スクミリンゴガイ	(外)3				
13		カラスガイ	1				
14		モノアラガイ	6				

## イ 特記すべき生物

外来種について平成 26 年度と違いが見られた。水田に面した池の工事により底生成物の環境が変わり、タイリクバラタナゴが激減していた。また、カダヤシも少なくなっている。タイリクバラタナゴは大型二枚貝に産卵し、大型二枚貝の稚貝はヨシノボリやドンコによって運ばれることが知られている。環境が変わると生物が変わる一つの例と思われる。スクミリングガイやサカマキガイも今回減少していた。一方、アメリカザリガニは先回に比べ大型のものが捕獲された。

在来種については昨年とあまり変わりがなかったが、比較的きれいな水に住むといわれるヨシノボリが捕獲された。スジエビは多数網にかかり、参加した子どもたちも大喜びであった。このエビは生態系の食物連鎖の中では下部に位置するもので魚類の生息状況と深くかかわるものである。今後も注視したい。

### ④ 考 察

この場所の環境は宮田用水の良質な水に加え、周りに民家が少ないこともあって水生生物を調べるには適した場所である。採集日は水深が 75 cmほどあり、動物性プランクトンが多数観察できた。水生昆虫はいつも少ないが、今年はハイイロゲンゴロウを多数捕獲した。

水生生物の観察会は毎年人気があり、参加者も多い。小さな子どもでもそれなりに上手になって行くのも見ていて頼もしい。このような機会を通して一人でも多くの子どもが環境と生き物について関心を持ち、自然を大切にしようとする気持ちを持たせたら幸である

### ⑤ 活動の様子



(4) サリオパーク祖父江 野鳥自然観察会

① 活動要領

- ・ 目的：環境基本計画に基づき、市民の方々に身近な自然とのふれあいを通じて、人と自然が共生できる社会作りの推進を図る
- ・ 日時：平成 27 年 11 月 28 日（土） 午前 9 時から 11 時 30 分まで
- ・ 場所：稲沢市祖父江町地内木曾川河川敷（サリオパーク祖父江内）
- ・ 内容：野鳥の観察など
- ・ 集合：国営木曾三川公園ワイルドネイチャー駐車場  
※雨天：木曾川祖父江緑地管理事務所駐車場
- ・ 参加者：一般 9 人 小学生 1 人 10 人
- ・ 講師等：指導者 2 人 補助者 1 人 職員 2 人  
国営木曾三川公園管理センター 1 人

② 活動内容

- ・ 事前調査：活動場所、危険箇所、救急体制、交通事情、野鳥生息環境等
- ・ 事前準備：野鳥観察資料、双眼鏡、望遠鏡、カメラ、記録用紙、筆記用具、救急セット等
- ・ 参加者準備：筆記用具、帽子、水筒、防寒具（双眼鏡、カメラ）
- ・ 当日日程：  
～ 9：00 集合  
9：00～ 9：30 主催者あいさつ 日程説明 講師紹介  
9：30～10：30 自然観察会  
10：30～11：30 観察のまとめ、環境学習、閉会あいさつ

③ 活動の実際

ア 観察された野鳥

ウグイス	オオバン	オカヨシガモ	カイツブリ
カルガモ	カワウ	カワラヒワ	カンムリカイツブリ
コガモ	コゲラ	シジュウカラ	シメ
ジョウビタキ	スズガモ	セグロセキレイ	ダイサギ
ツグミ	ニュウナイスズメ	ハクセキレイ	ハシビロガモ
ハシブトガラス	ハジロカイツブリ	ヒドリガモ	ヒバリ
ヒヨドリ	ホジロ	マガモ	ミサゴ
メジロ	モズ		

イ 配付布資料

- ・ 県下の主な飛来地別野鳥の種類と保護状況表
- ・ 平成 26 年月別木曾川祖父江野鳥の森観察記録一覧表
- ・ 木曾川祖父江野鳥の森冬鳥・漂鳥年度別飛来状況表

④ 結果と考察

初めに、マユミの実を食べるコゲラが観察でき、カメラを持った人は撮影できた。丁度用意していたコゲラの写真があったので全員にプレゼントし、鳥の説明をした。

当日はコゲラとカンムリカイツブリ、カモ類の全員観察を目標として取り組み、目標は十分達成できた。人気のベニマシコが見られなかったのが残念である。

野鳥観察用のスコープを用意したことは、遠くで泳いでいる水鳥を確認するのに非常に有効であった。また、資料を用意したことによって、この地の野鳥の豊富さと見られる時期を伝えるのに役立った。自然豊かなこの地が更に身近なものとなり、観察会などの機会や参加の情報をもっと多くの人に知らせる手法や広報活動が必要であると感じた。

⑤ 活動の様子

